

e news SEaweEDS No. 8

日本海藻協会ニュース

2008年11月15日

I. 協会事務局から

1. シンポジウム等に対する要望をお寄せください

今後のシンポジウムや講演会について、テーマ、講師、開催地などについて会員からの要望を募ります。提案を事務局宛に積極的にお寄せください。

II. 海藻関連ニュース

1. 2008年度藻類談話会

2008年度藻類談話会が2008年11月22日（土）13:00-17:00に京都大学大学院人間・環境学研究科棟B23大講義室（京都市左京区吉田二本松町）で開かれます。参加費は500円です。談話会終了後に懇親会（会費：一般3,000円、学生1,500円）が予定されています。講演予定等を知りたい方は<http://biotech.nikkeibp.co.jp/100hpn/index.jsp>から「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目を選んで下さい。

参加申込み・問合せ先：〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間・環境学研究科 幡野恭子（Tel: 075-753-6854, Fax: 075-753-6694, e-mail: kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp）

2. 国際藻類会議2008

国際藻類会議2008（International Algae Congress 2008）が2008年12月3・4日にアムステルダムのHet West-Indisch Huisで開催されます。ワーゲニンゲン大学の藻類学者 Dr. Ir. Aalt Dijkhuizen を委員長とする会議で、藻類産業の近年の発展に力点が置かれており、科学、生産 / 加工、応用に関する6つのセッションでオランダ、ドイツ、フィンランド、イタリア、

イスラエル、その他の国々からの発表が予定されています。また、同時開催の交易会 (Trade Show) も予定されています。(www.algaecongress.com, tdeboer@agriprojects.com 参照)

3. 日本藻類学会第 33 回大会－沖縄-2009－

日本藻類学会第 33 回大会－沖縄-2009－が 2009 年 3 月 26－29 日に琉球大学(沖縄県千原)で開催されます。日程の概要は次の通りです。詳細は日本藻類学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsp/Welcome.htm>)をご覧ください。

- 3 月 26 日 (木) 評議員会、ワークショップ I
- 3 月 27 日 (金) 口頭・ポスター発表、総会、懇親会
- 3 月 28 日 (土) 口頭・ポスター発表、公開シンポジウム、
ワークショップ II (30 日まで継続)
- 3 月 29 日 (日) エクスカーション (カサノリ生育地での観察会など)、
ワークショップ II (30 日まで継続)

4. 第 9 回国際藻類学会議

第 9 回国際藻類学会議 (The 9th International Phycological Congress, IPC9) が 2009 年 8 月 2－8 日に東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催されます。経済的支援申請の締切日は 2008 年 12 月 1 日、ワークショップ申込み締切日は 2009 年 2 月 1 日、早期参加登録及び発表要旨提出の締切日は 2009 年 3 月 31 日、参加登録・宿泊・エクスカーション等の取消し期限は 2009 年 5 月 15 日です。

会議事務局： G.education Co., Ltd., Ginza 1-15-2, Chuo-ku, Tokyo
Tel. 03-3563-2890, Fax. 03-3563-2892, ipc9@ec-inc.co.jp
詳細は<http://www.ec-japan.jp/ipc9/index.html> をご覧下さい。

III. カレンダー

- 2008.11.22. 2008 年度藻類談話会 (京都 京大大学院人間・環境学研究科棟 B23 大講義室)
- 2008.12.3-4. 国際藻類会議 2008 (オランダ・アムステルダム)
- 2009.3.26-29. 日本藻類学会第 33 回大会 (沖縄 琉球大)
- 2009.8.2-8. 第 9 回国際藻類学会議 (東京 オリンピック記念青年総合センター)

IV. 新刊図書案内

1. 松橋鐵治郎 (2008): 寒天・ところてん読本. 農山漁村文化協会. 213pp. 定価 (本体 1,850 円+税)
2. 北田修一・帰山雅秀・浜崎活幸・谷口順彦 (編著) (2008): 水産資源の増殖と保全. 成山堂書店. 252pp. 定価 3,780 円 (税込)
3. 今西 一・中谷三男 (2008): 明太子開発史 -そのルーツを探る-. 成山堂書店. 474pp. 定価 5,880 円 (税込)
4. 酒井亮介 (2008): 雑喉場魚市場史 -大阪の生魚流通-. 成山堂書店. 420pp. 定価 4,830 円 (税込)
5. (財)蘭島文化振興財団 (2008): 芸南の海藻. 貝と海藻の家. 256pp. 定価 1,500 円 (税込)
6. 久場安次 (2008): 潮間帯と海藻. 新星出版. 120pp. 定価 1,260 円 (税込)

V. 海藻 Q & A

Q11ー中国で栽培 (養殖) されているノリは日本のノリと同じですか?

Aー ノリ (*Porphyra*, アマノリ属) は、日本、韓国、中国で栽培 (養殖) されています。中国では、日本で栽培されているのと同じスサビノリ (*Porphyra yezoensis*) と中国だけに生育する ポルフィラ・ハイタネンシス (*Porphyra haitanensis*) の 2 種が栽培されています。スサビノリは主に北部の江蘇省と山東省の沿岸で、ハイタネンシスは主に南部の浙江省と福建省の沿岸で栽培されています。ハイタネンシスは海壇島 (ハイタンタオ) で採集された標本が元になって名づけられました。中国語ではノリを紫菜 (シーツァイ、ツィーサイ、ツーサイ) と言いますが、ハイタネンシスは壇紫菜 (タンツィーサイ)、スサビノリは条斑紫菜と呼ばれます。日本語の正式な名前 (和名) はありませんが、「ハイタンアマノリ」と呼ぶのが良いのではないのでしょうか (*P. tanegashimensis* はタネガシマアマノリと言いますから)。ハイタンアマノリは大部分は雌雄異株ですが、時に雌雄同株のものが見られます。ハイタンアマノリの特徴の一つは、単胞子による無性生殖が無い

